

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 8 年 9 月調査結果 - -

(平成 1 8 年 9 月 2 9 日)

調査期間：平成 1 8 年 9 月 1 5 日 ~ 2 2 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 9 0 業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 0 製造業 6 2 2 卸売業 2 3 4
小売業 7 4 0 サービス業 6 1 4

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題など

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

業況D Iのマイナス幅は、3カ月ぶりに拡大

9月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（22.9）よりマイナス幅が4.1ポイント拡大して27.0となり、3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

産業別の業況D Iは、全業種でマイナス幅が拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好調、売上増加、消費好調、先行き期待という声が寄せられている一方、依然として公共工事の減少など業況低迷や先行き不透明感、仕入コストの上昇による採算悪化、借入金利の上昇、地域間格差を訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「仕入コスト上昇による採算、資金繰りの悪化は見られるものの、公共工事の発注により対前年同月比で受注が増加した」（一般工事）との声がある一方、「公共工事が大幅に減少している一方、民間工事は若干上昇気味ではあるが、仕入コスト上昇により採算面では厳しい状況にある」（建築工事）「相変わらず受注量は少なく業況は厳しいのに加え、借入金利引き上げ報道で支払利息の増加も懸念され始めている」（一般工事）との声も寄せられている。

【製造業】では、「引き続き新規発注が多く、採算を重視して受注案件を選別できる状況にある」（工業用プラスチック製造）との声がある一方、「原油価格高騰でインクや紙の仕入価格、製品の輸送価格が上昇しており、印刷業界は厳しい状況に追い込まれている」（印刷業）と、原油価格高騰による影響を指摘するコメントに加え、「前月末に大手呉服販売チェーンが倒産した影響が大きく、業況はしばらくの間低迷するのではないかと」（織物製造）と、大型倒産の影響による先行き不安感を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「取引先が増えており、業況は好調だと認識している」（農畜産水産物卸売）との声がある一方、「大手呉服販売チェーン倒産の余波を受け、業況がより厳しくなっている」（衣服・日用品卸売）と大型倒産の影響を訴えるコメントのほか、「原材料価格高騰の影響か、製品の仕入価格が値上げされた」（家具・建具等卸売）と、原材料価格高騰の影響を訴える声が寄せられている。

【小売業】では、「残暑が終わって秋物衣料の売上が出始めており、ガソリン高など消費行動を抑制する要因はあるものの、個人消費は停滞しないと考えている」（百貨店）との声がある一方、「豪雨の影響で来店者数が減少した」（その他の小売）と、台風による影響を訴えるコメントに加え、「地方小売業の景気は好転せず、個人消費が上昇しているといっても地方商店街の客足は遠のいたまま」（商店街）と、地域間格差を訴える声も寄せられている。

【サービス業】では、「イベント開催に伴う宿泊需要の増加に加え、ビジネス客の需要も回復している」（旅館）との声がある一方、「ガソリン価格高騰の影響か、客足が鈍っている感がある」（料亭）とのコメントのほか、「経営環境は依然として厳しく、運送単価の低下に加え、原油価格高騰や駐車違反对策によるコストアップが原因で、採算が悪化している」（運送業）と、原油価格高騰等によるコスト上昇を訴える声が寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が4.5ポイント拡大して19.1となり、3カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は全業種で拡大した。

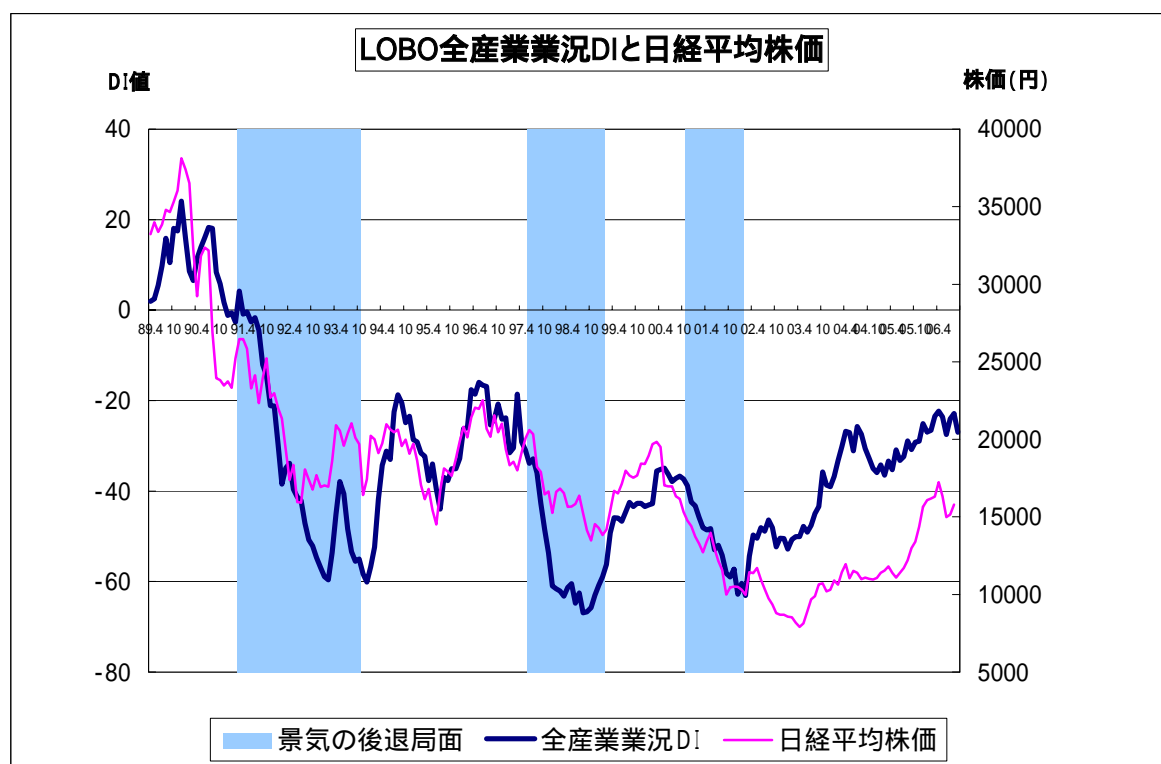
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が2.7ポイント拡大して29.2となり、3カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売で縮小したものの、他の4業種で拡大した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が1.6ポイント強まって18.5となり、3カ月ぶりに強まった。産業別にみると、DI値の悪化超感卸売で弱まったものの、他の4業種で強まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価DIは、上昇超感が1.2ポイント弱まって30.0となり、7カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、DI値の上昇超感製造、卸売で強まったものの、他の3業種で弱まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは、過剰超感が0.6ポイント強まって1.1となり、3カ月ぶりに強まった。産業別にみると、DI値は建設、卸売で過剰超感が弱まり、サービスで不足超感が強まる一方、他の2業種で不足超感が弱まった。

向こう3カ月(10月～12月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が21.2と、昨年同時期の先行き見通し(24.4)に比べて改善している。



【業況についての判断】

9月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 22.9 ）よりマイナス幅が4.1ポイント拡大して 27.0 となり、3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

産業別にみると、全業種でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 21.2 と、昨年同時期の先行き見通し（ 24.4 ）に比べて改善している。

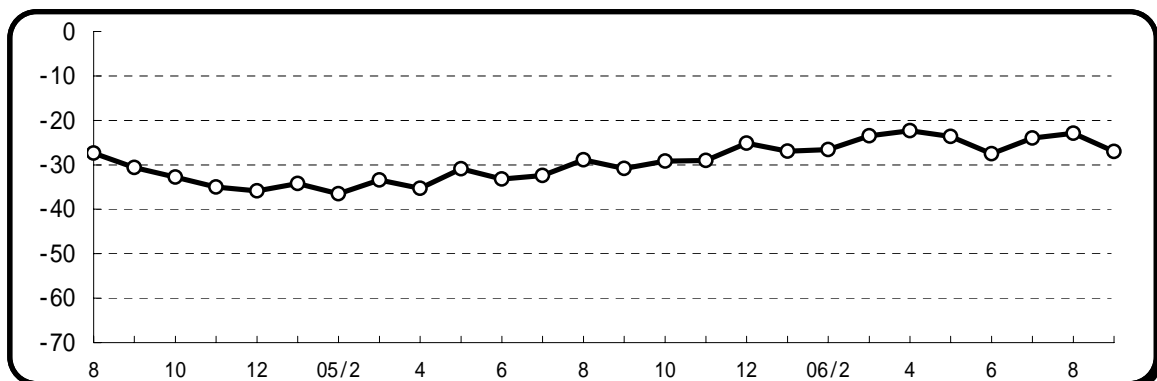
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売でマイナス幅が拡大しているものの、他の4業種で縮小している。

業況D I（前年同月比）の推移

	18年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	22.3	23.6	27.5	24.0	22.9	27.0	21.2 (24.4)
建設	40.7	40.0	44.1	36.5	34.8	43.1	36.6 (39.3)
製造	11.5	10.5	16.1	8.3	12.8	14.3	14.3 (15.7)
卸売	25.5	32.3	31.5	31.8	30.5	32.9	28.7 (14.8)
小売	18.3	22.4	23.4	22.4	19.7	22.0	15.8 (24.6)
サービス	26.1	24.6	32.5	31.4	26.7	33.3	21.8 (27.5)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年9月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が4.5ポイント拡大して19.1となり、3カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は全業種で拡大した。

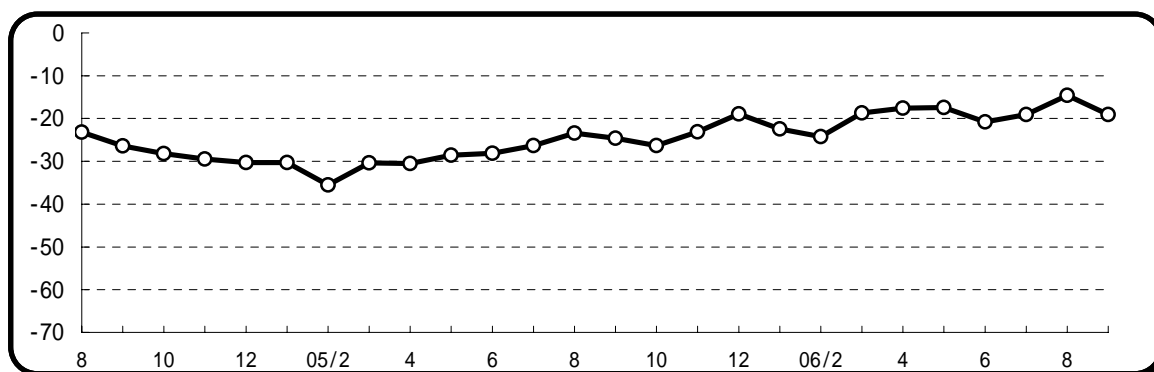
向こう3カ月(10月～12月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が12.0と、昨年同時期の先行き見通し(16.1)に比べて改善している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売でマイナス幅が拡大しているものの、他の4業種で縮小している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	18年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	17.6	17.4	20.8	19.1	14.6	19.1	12.0 (16.1)
建設	35.8	37.0	38.3	30.9	28.9	34.4	26.8 (28.3)
製造	1.4	0.9	2.3	3.2	3.7	4.8	5.8 (7.5)
卸売	28.8	31.1	23.5	25.5	19.5	20.9	14.0 (7.1)
小売	18.8	20.8	23.4	20.9	14.9	18.3	8.5 (16.5)
サービス	17.4	14.5	25.4	23.4	14.9	23.7	11.9 (20.2)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が2.7ポイント拡大して29.2となり、3カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売で縮小したものの、他の4業種で拡大した。

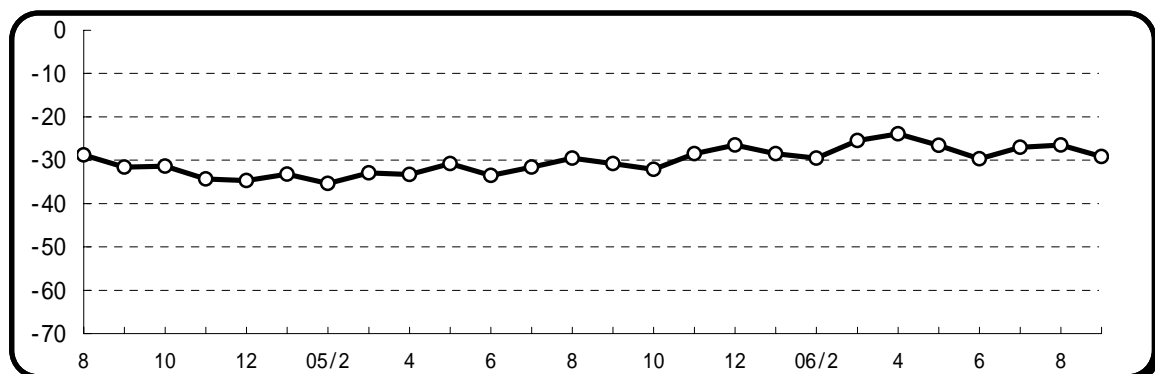
向こう3カ月(10月～12月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が22.0と、昨年同時期の先行き見通し(22.3)に比べて改善している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、建設、製造、サービスでマイナス幅が拡大しているものの、他の2業種でマイナス幅が縮小している。

採算D I (前年同月比) の推移

	18年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	23.9	26.6	29.7	27.0	26.5	29.2	22.0 (22.3)
建設	41.1	45.6	46.6	37.1	39.8	45.2	38.7 (37.9)
製造	16.4	21.8	24.3	17.9	23.6	25.9	19.8 (17.6)
卸売	25.0	30.5	26.5	32.5	25.6	22.8	17.2 (18.7)
小売	17.4	21.4	26.1	23.0	18.5	20.6	13.8 (17.3)
サービス	28.5	24.1	30.4	32.6	31.3	34.9	25.1 (24.5)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	18年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	17.1	17.8	18.3	17.7	16.9	18.5	17.1 (15.7)
建設	30.0	32.2	34.1	28.9	27.6	30.3	29.6 (30.3)
製造	11.8	11.7	12.4	10.9	11.8	13.3	14.9 (14.5)
卸売	10.6	17.0	17.4	15.8	14.6	11.4	12.1 (9.5)
小売	12.7	15.0	13.6	15.0	13.3	14.4	14.7 (12.1)
サービス	21.6	17.9	19.6	21.8	20.3	23.7	15.7 (13.9)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が3カ月ぶりに強まった。産業別にみると、卸売で悪化超感が弱まったものの、他の4業種では強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみると、建設で悪化超感が弱まるものの、他の4業種では強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	18年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	21.7	24.5	27.1	28.5	31.2	30.0	25.9 (18.5)
建設	27.8	37.3	37.4	38.6	42.0	35.1	31.8 (27.8)
製造	39.3	38.4	41.3	42.3	45.6	47.6	38.8 (28.6)
卸売	19.4	25.0	27.2	36.9	36.0	36.7	26.8 (14.8)
小売	8.0	10.0	13.5	14.3	16.0	14.8	16.7 (11.1)
サービス	16.2	19.7	21.8	21.2	25.5	24.4	19.8 (12.1)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が7カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、製造、卸売で上昇超感が強まったものの、他の3業種では弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみても、全業種で上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	18年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	0.6	1.7	2.1	1.4	0.5	1.1	3.5 (6.0)
建設	16.3	21.9	19.0	18.2	17.1	16.4	15.7 (17.6)
製造	1.1	2.3	1.8	0.7	3.2	0.2	5.8 (8.2)
卸売	3.8	3.7	4.9	8.9	7.3	5.7	6.6 (5.2)
小売	7.6	6.7	5.4	6.6	5.4	4.7	1.2 (0.2)
サービス	4.2	2.4	0.2	1.0	2.0	2.5	3.2 (3.0)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】全産業合計は3カ月ぶりに過剰超感が強まった。産業別にみると、建設、卸売で過剰超感が弱まり、サービスで不足超感が強まる一方、他の2業種で不足超感が弱まった。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が弱まる見通し。産業別にみると、卸売で過剰超感が強まるものの建設、製造で弱まり、サービスで不足超感に転じるとともに、小売で不足超感が強まる見通し。

【平成18年9月の景気キーワード】

回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費好調、先行き期待という声が寄せられている。「増改築需要が増加している」(唐津・建築工事)「依然として顧客の設備投資は活発で一部の会員企業では人材不足感も出てきており、今後も業況は堅調に推移するものと考えている」(相模原・金属加工機械製造)とのコメントが寄せられている。また、「9月前半は昨年と比べ気温が低下した影響で、秋物衣料の出荷が好調」(福井・繊維品卸売)「来店者の購買意欲がわずかながら盛り返してきたと感じており、先行きに期待したい」(京都・商店街)と一部地域からの消費好調を指摘する声のほか、「近隣で工事が続いており、工事関係者の宿泊で業況は堅調な推移を示している」(防府・旅館)とのコメントも寄せられている。

悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き公共工事の減少など業況低迷や先行き不透明感、仕入コストの上昇による採算悪化、借入金利の上昇、地域間格差を訴える声も寄せられている。建設、製造からは「北海道の建設業は公共工事の減少により一段と厳しい状況に追い込まれている」(札幌・一般工事)「原油価格高騰による仕入コスト上昇や借入金利上昇の影響を受けて、資金繰りが悪化している」(福山・製材木製品製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからは、「いまだに景気回復の兆しを感じられず、先行き不透明感も強い」(焼津・農畜産水産物卸売)「新聞では景気回復と報道されているが、地方では企業、個人ともに景気が回復しているとは思えない」(美濃加茂・商店街)「建設関係の企業からの受注が減少傾向にある」(西条・自動車整備)とのコメントが寄せられている。

仕入・輸送コスト上昇

また、引き続き、原油・素材価格の高騰等による仕入・輸送コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「原油を使用している原料の仕入コストが上昇傾向にある」(赤穂・一般工事)「売上増加に隠れているが、原材料の仕入コスト上昇分を価格に転嫁できておらず、先行きに不安を感じている」(さいたま・ブリキ缶等製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも「原油価格高騰で商品の仕入・輸送コストが上昇しており、収益の悪化が続いている」(土佐清水・食料・飲料卸売)「原油、エアコンの配管や電線など銅製品の仕入価格上昇が顕著に見られ、先行き見通しが不透明である」(新宮・商店街)「売上に変化は見られないが、送迎バスの燃料代やシーツ等のクリーニング代が上昇し、採算が悪化している」(福山・旅館)といったコメントが寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
18年	7月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
	8月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
	9月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上D Iは3カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「仕入コスト上昇による採算、資金繰りの悪化は見られるものの、公共工事の発注により対前年同月比で受注が増加した」(一般工事)との声がある一方、「公共工事が大幅に減少している一方、民間工事は若干上昇気味ではあるが、仕入コスト上昇により採算面では厳しい状況にある」(建築工事)「相変わらず受注量は少なく業況は厳しいのに加え、借入金利引き上げ報道で支払利息の増加も懸念され始めている」(一般工事)「本格化した公共工事の発注は低調であり、民間工事も同様の傾向が見える」(土木工事)といった声も寄せられている。
製 造	業況・採算D Iは2カ月連続、売上D Iは4カ月連続でマイナス幅が拡大した。「引き続き新規発注が多く、採算を重視して受注案件を選別できる状況にある」(工業用プラスチック製造)「当業界が生産している製品をテーマにした映画の公開により、売上の増加を期待している」(他の食料品製造)との声がある一方、「前月末に大手呉服販売チェーンが倒産した影響が大きく、業況はしばらくの間低迷するのではないか」(織物製造)「食品包装用の容器などの製品については、原料の仕入コスト高に見合う程、販売価格への転嫁はできていない」(他のプラスチック製造)「原油価格高騰でインクや紙の仕入価格、製品の輸送価格が上昇しており、印刷業界は厳しい状況に追い込まれている」(印刷業)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、採算D Iは2カ月連続で縮小した。「取引先が増えており、業況は好調だと認識している」(農畜産水産物卸売)との声がある一方、「大手呉服販売チェーン倒産の余波を受け、業況がより厳しくなっている」(衣服・日用品卸売)「原材料価格高騰の影響か、製品の仕入価格が値上げされた」(家具・建具等卸売)「景気回復感なく、多数の企業で売上低迷のまま推移している」(各種商品卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況・売上・採算D Iともに3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「残暑が終わって秋物衣料の売上が始まっており、ガソリン高など消費行動を抑制する要因はあるものの、個人消費は停滞しないと考えている」(百貨店)「暑さも和らいで観光客も見られるようになり、休日の来街者は少ないものの全体的には増えている」(商店街)との声がある一方、「商店街の人通りは少なく組合員は厳しい経営を強いられている」(商店街)「地方小売業の景気は好転せず、個人消費が上昇しているといっても地方商店街の客足は遠のいたまま」(商店街)「豪雨の影響で来店者数が減少した」(その他の小売)といった声が寄せられている。
サービス	業況・売上D Iは3カ月ぶり、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「イベント開催に伴う宿泊需要の増加に加え、ビジネス客の需要も回復している」(旅館)、「売上が対前年同月比でやや増加した」(食堂・レストラン)との声がある一方、「ガソリン価格高騰の影響か、客足が鈍っている感がある」(料亭)「経営環境は依然として厳しく、運送単価の低下に加え、原油価格高騰や駐車違反对策によるコストアップが原因で、採算が悪化している」(運送業)「組合員からは、低料金でサービスを提供する同業他店との競争により売上が減少しているとの声を聞いている」(理容)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北海道、東海でマイナス幅が縮小し、近畿で横ばいであったものの、他の6ブロックで拡大した。なお、全ブロック合計は3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

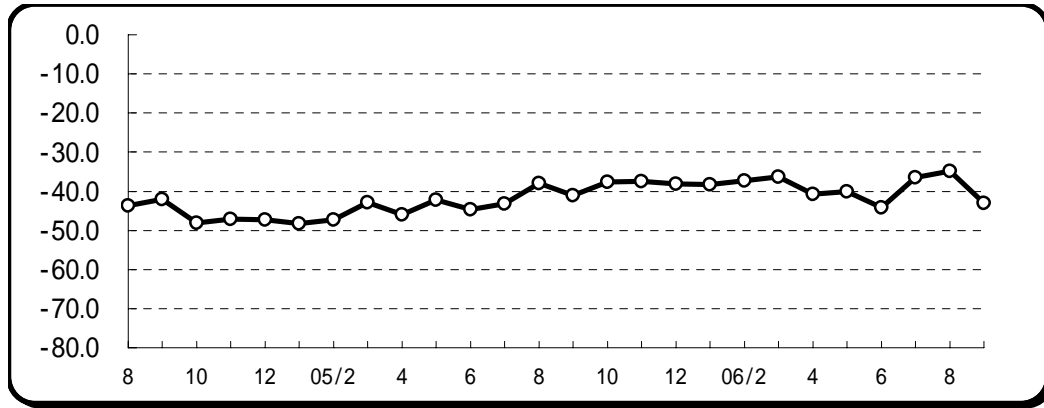
ブロック別の向こう3カ月(10月~12月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、北海道、関東、近畿で悪化したものの、他の6ブロックで改善した。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

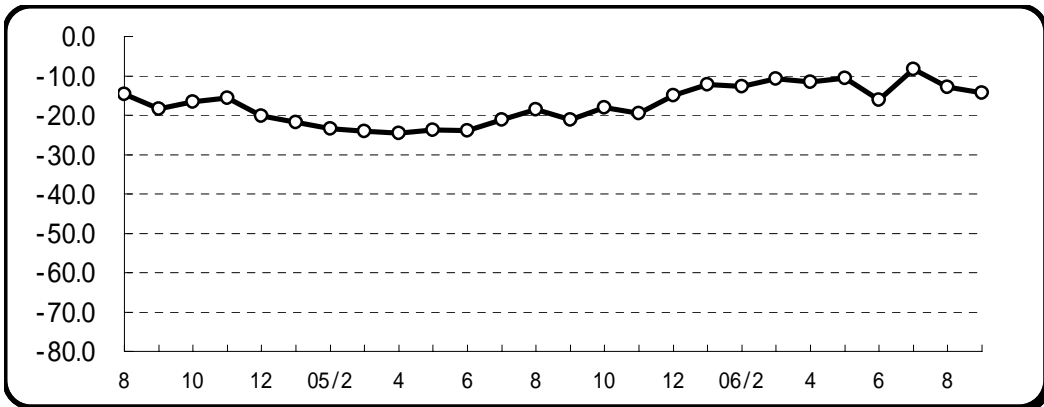
	18年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全 国	22.3	23.6	27.5	24.0	22.9	27.0	21.2 (24.4)
北海道	29.3	29.4	36.2	20.4	30.6	28.6	31.1 (27.0)
東 北	29.6	30.3	33.8	22.4	24.8	33.6	28.4 (31.6)
北陸信越	23.7	17.3	25.1	20.8	13.7	18.1	11.1 (20.0)
関 東	15.7	21.1	22.6	21.6	15.2	24.3	19.7 (16.7)
東 海	15.0	20.8	22.6	17.9	24.2	22.5	11.9 (25.6)
近 畿	22.1	25.4	28.5	30.1	29.4	29.4	25.8 (23.7)
中 国	26.5	26.9	31.9	30.0	25.9	34.3	27.4 (34.8)
四 国	36.7	29.0	40.0	38.1	35.7	36.9	23.4 (33.3)
九 州	21.1	20.2	21.0	19.1	20.7	24.2	18.8 (24.6)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

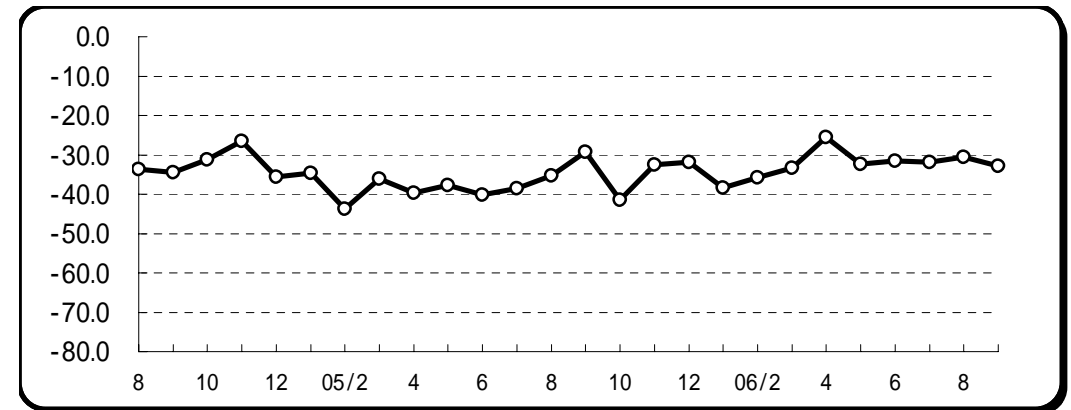
建設業



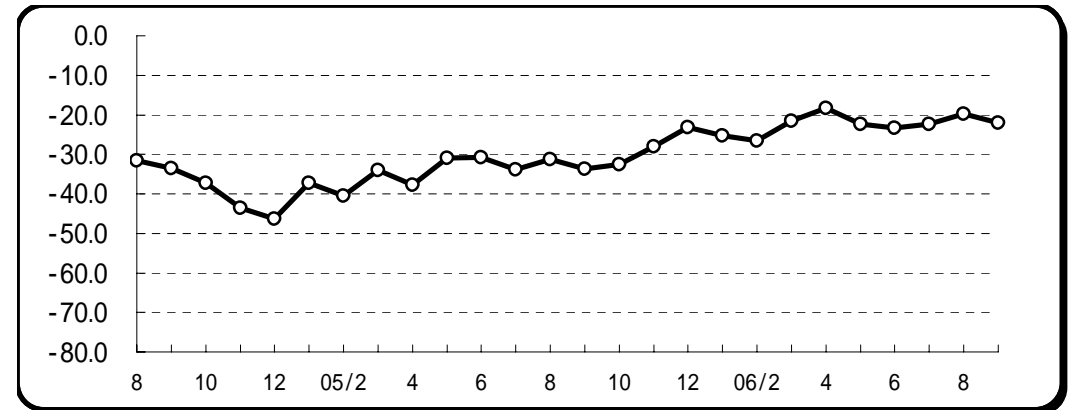
製造業



卸売業



小売業



サービス業

